

すいかきさい 水火既濟

きさい とお しょう ただ よ きつ
既濟は、亨ること小なり。貞しきに利ろし。初めは吉にして終わりは乱る。

たん きさい とお とお ただ よ ごうじゅう
象に曰く、既濟は亨るとは、小なる者亨るなり。貞しきに利ろしとは、剛柔正しくして

くらい きつ じゅうちゅう え とど
位 当たればなり。初め吉なりとは、柔中を得ればなり。終わりに止まれば乱るとは、

きわ
その道窮まるなり。

ひのうえ きさい くんし わずらい あらか
象に曰く、水の火上に在るは既濟なり。君子もって患を思いて予じめこれを防ぐ。

きゅうさん こうそうきほう う か しょうじん
九三。高宗鬼方を伐つ。三年にしてこれに克つ。小人は用うるなかれ。

か つか
象に曰く、三年にしてこれに克つとは、憊れたるなり。

りくし ぬ いじよ いまし
六四。繻るるとき衣袂あり。終日戒む。

いまし
象に曰く、終日戒むとは、疑うところあればなり。

かすいびせい 火水未済

びせい とお こぎつね わた よ
未済は、亨る。小狐ほとんど済らんとして、その尾を濡らす。利ろしきところなし。

たん びせい とお じゅうちゅう え わた
象に曰く、未済は亨るとは、柔中を得ればなり。小狐ほとんど済らんとすとは、いま

ちゅう い お よ
だ中を出でざるなり。その尾を濡らす。利ろしきところなしとは、続いて終わらざれば

なり。位に当たらずといえども、ごうじゅう
剛柔応ずるなり。

ひ すいじょう びせい べん ほう お
象に曰く、火の水の上に在るは未済なり。君子もって慎みてものを弁じ方に居く。

しりく お ぬ りん
初六。その尾を濡らす吝なり。

象に曰く、その尾を濡らすとは、またきょく
極を知らざるなり。

きゅうじ りん ひ ただ きつ
九二。その輪を曳く。貞しくして吉なり。

象に曰く、きゅうじ ただ きつ ちゅう せい おこな
九二の貞しくして吉なるは、中をもって正を行えばなり。

りくさん わた ゆ たいせん わた よ
六三。いまだ済らず。征くは凶なり。大川を渉るに利ろし。

象に曰く、いまだわた
済らず、征くは凶なりとは位当たらざればなり。

きゅうし ただ きつ くい うご きほう う しょう
九四。貞しければ吉にして悔亡ぶ。震きてもって鬼方を伐つ。三年にして大国に賞せら

るることあり。

象に曰く、貞^{ただ}しければ、悔^{くい}亡^{こころざし}ぶとは、志^{こころざし} 行^{こころざし}なわるるなり。

六五、貞^{ただ}しければ吉^{きつ}にして悔^{くい}いなし。君子^{ひかり}の光^{ひかり} あり。孚^{まこと}ありて吉^{きつ}なり。

象に曰く、君子^{ひかり}の光^{ひかり}ありとは、その輝^{きつ}き吉^{きつ}なるなり。

上九。飲^{じょうきゅう}酒^{いんしゅ}に孚^{まこと}あり。咎^{とが}なし。その首^{こうべ}を濡^ぬらす時は、孚^{まこと}あれども是^ぜを失^しう。象に曰く、

酒^{さけ}を飲^のみて首^{こうべ}を濡^ぬらすとは、また節^{せつ}するを知らざるなり。